第 18 回熊谷市地域公共交通会議会議録

平成 28 年 3 月 22 日(月)13:30～14:30
熊谷市役所６階６０３会議室

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 議題

(1)新委員の選出について

①事務局説明
　周辺市町と連携した取組を推進するため、行田市、吉見町、及び熊谷市の交通政策部局から委員を任命したい。
②結論
　承認。

(2)熊谷市地域公共交通網形成計画の策定について

①事務局説明
　地域公共交通網形成計画（案）について説明。
②意見交換・質疑等（概要）
（委　員）吉見町コミュニティバスと連携について。現状は。
（事務局）現状は、長島記念館付近で本市ゆうゆうバスと吉見町コミュニティバスのルートが交差している。乗換えポイントや乗換環境の整備等について調整をしていきたい。
（委　員）ノンステップバスの導入支援について。現在の普及率は。
（委　員）一般路線では毎年４～５台程度を切り替えており大体５０%。
（委　員）連節バス導入について。車体が長いため、交通渋滞が生じるのではないか。また、ラグビーワールドカップ(以下「ＲＷＣ」と表記。)後の活用方法についてはどうか。
（事務局）回転半径は大型バスとあまり変わらないため、大型バスが通行可能ならば連節バスも通行できる。ラグビーワールドカップ以降の大規模大会での利用を考えており、それ以外では、通勤通学等で需要がある路線での利用について事業者と調整検討をしてまいりたい。
（委　員）まちづくりとの連携について。多言語表記やＷｉ－Ｆｉ等は公共交通だけでなくまちづくり全体で検討した方が良いのでは。
（事務局）総合戦略等と連携しながら実施していく。

（委　員）連節バスについて。熊谷駅前には停車できないだろうから、駅前から離れた場所を発着場にする必要があるのではないか。大型バスとほぼ同じということだが、熊谷駅北口は送迎の自家用車が車路の両側に停車していると連節バスが通行できるか不安である。再整備が必要になるのではないかというイメージがある。

（委　員）この機会に、駅前広場の利用状況の整理や再整備に取組めると良い。もし、駅前広場が難しいならファンゾーンを発着場とする、またはＲＷＣ後の使用も採算性が厳しいなら車両の一時借用も含めた検討も必要になるだろうが、ＲＷＣを絶好の機会と捉え、計画自体の難しさはあるものの検討して貰いたい。

（委　員）連節バスは日本では馴染みがないが、ヨーロッパでは行田市駅より狭い駅前広場を３分に１本の頻度で走行している。導入に向けては、整備工場に入るかという課題が懸念される。

（委　員）大雪時にはバス遅延に関する問合せが多いが、バスロケーションシステム（以下「バスロケ」と表記。）を導入している他の市町では問合せは殆どない。バスロケは利用者、事業者ともに役立ち、導入コストも安価になってきているのでぜひ検討いただきたい。

（委　員）ノンステップバスに対する助成制度のように、福祉タクシーやＵＤタクシーの導入についても支援を検討して欲しい。

（委　員）熊谷駅北口に集中している。送迎の一般車、タクシー、バスそれぞれが利用しやすい駅前広場の検討を願いたい。

（委　員）基本方針にある「まちづくりと一体」について、ＢＲＴだけでなく、Ｗｉ－Ｆｉ、バスロケーションシステム、パークアンドライド等の施策との連携も含めて良く検討をお願いしたい。

（委　員）Ｗｉ－Ｆｉ整備について。駅周辺から始めて、それを会場までどう繋いでいくか、広げていくかを考える必要がある。バスロケーションシステムはゆうゆうバスで社会実験をしたことはあるが、利用者の利便性を考えると路線バスへの導入が課題であり検討が必要。

（委　員）路線バスだとバス停を降りてから病院や自宅まで歩かなくてはいけない。例えば、バス停からタクシーを呼ぶシステムがあれば、バス停から自宅までの送迎ができる。また、補助制度を設けて、高齢者の通院や買物をタクシーが手助けすることも考えられる。検討頂きたい。

（委　員）連節バスについて。ルート検討は公安委員会、道路管理者等とも調整が必要なので留意願いたい。

③結論

承認。

4. 閉会